

文化で次代を拓く！隣国、韓国の場合 ～過去・現在・未来～

2018年8月6日(月) 18時30分～20時 料金：無料

会場：わくわくホリデーホール(札幌市民ホール) 2F 第一会議室

<出演者>

- ・ 関 鎮京 (北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツビジネス専攻 芸術文化政策研究室 准教授)
- ・ 磯田 憲一 (公益財団法人北海道文化財団 理事長)

主催：ACF 札幌芸術・文化フォーラム / 大和リース(株)

後援：公益財団法人北海道文化財団

近年、韓国では国が高々と文化政策を掲げて積極的に取り組んでいる、とよく耳にします。2017年度国家予算に対する文化予算の比率をみると日本が0.11%である一方、韓国は1.05%を占めています。国民一人当たりの文化予算は、日本819円に対し、韓国は5,467円と金額での差は歴然としています。これらは、国の政策における文化政策の位置付けの違いの現れともいえるでしょう。

韓国の文化政策は国家主導の性格が極めて著しい。しかも大統領政権ごとに特徴を持ちながら国政全般との関連性を強めています。それは、文化政策を政治理念に利用した朴正熙(パク・チョンヒ)政権(1963年～1979年)から始まったと設定してみて、現在に至るまでどのような変遷を経て、進展してきているのだろうか？

本レクチャーの前半では、韓国の文化政策の過去と現在、表と裏を話します。それらをいわば反射鏡としながら、後半では北海道文化財団の磯田憲一理事長を迎えます。北海道文化振興条例(1998年制定)に掲げられている「文化権」の意義・意味のリアルを語っていただくとともに、「文化権」に基づく国と自治体の文化政策の在り方、いわば「文化的QOL(クオリティ・オブ・ライフ)」について考えます。

プロフィール

関 鎮京(みんじんきょん)

韓国ソウル生まれ。韓国国立オペラ団で演出助手と制作に携わり、2000年に来日。2001年に、文化庁海外招聘研修生として東京室内歌劇場でオペラ制作を担当した。2002年に東京藝術大学大学院に入学、2007年同大学院博士後期課程応用音楽学専攻修了(学術博士)。2006年から北海道教育大学専任講師を経て、2012年4月より現職。専門は文化政策。現在は札幌市「札幌文化芸術交流センター企画専門委員会」、札幌市「芸術文化基本計画検討委員会」、岩見沢市「総合戦略等推進委員会」の各委員や、「公益財団法人北海道演劇財団」評議員、「演劇創造都市札幌プロジェクト」代表幹事、「日本音楽芸術マネジメント学会」理事等を務めている。2017年度には「韓国国立オペラ団の歴史及び現状(音楽芸術マネジメント学会)」、「韓国における国主導の文化政策の変遷に関する一考察(アートマネジメント学会)」、「諸外国の文化政策に関する調査研究：韓国の文化政策担当(文化庁)」を執筆、報告。

磯田 憲一(いそだけんいち)

北海道旭川市出身、明治大学法学部法律学科卒業。以後、一貫して北海道人の視点で、地域力を活かしたさまざまな取り組みに関わる。1967年に北海道庁に入庁し、北海道政策室長、総合企画部長を経て北海道副知事となり、2003年に退任。在職中は「北海道文化振興条例」制定(1994年)、「北海道文化基金」・「北海道文化財団」設置を推進し、「時のアセスメント」の発案等を手掛ける。現在、一般財団法人北海道農業企業化研究所(HAL財団)理事長、公益財団法人北海道文化財団理事長、旭川大学客員教授、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄館長、「君の椅子」プロジェクト代表などを勤める。「誕生する子どもを迎える喜びを、共に分かち合える地域社会の再生」を願い、2006年から「君の椅子」プロジェクトに取り組む。2014年第6回日本マーケティング大賞地域賞、2015年9月、第37回サントリー地域文化賞を受賞。